

子育て支援医療給付事業

事業評価個票（事業実施：平成30年度）				部局名	子育て推進部			
短期アクションプラン	テーマ	テーマ1 郷土愛を育み未来を築く子育て支援・多彩に活躍する人づくり						
	施策	施策1 出会い・結婚・出産・子育ての希望の実現						
	目的	次代を担う子どもたちを育成する価値を社会全体で共有し、家庭、企業、地域などがそれぞれの立場で、出会い・結婚・出産・子育ての支援の一翼を担う。						
	目標指標（R2）	①婚姻率（20～44歳） ②合計特殊出生率	①上昇 ②1.70					
	策定時の実績	①15.7(H27年) ②1.48(H27年)	現状	①15.1(H30年) ②1.48(H30年)	主要事業	子育て家庭等への経済的負担の軽減と貧困を連鎖させないための支援の充実		
事業名	子育て支援医療給付事業		担当課・担当	子ども家庭課 母子保健担当				
事業開始年度	昭和48年度		事業終了(予定)年度	未設定				
事業の目的 (目指す姿を3行程度で簡潔に)	子どもの健康な発育を支援するとともに、次の世代を担うべき子どもを生み育てやすい社会環境を整備する。							
事業概要 (5行程度で簡潔に)	市町村が実施する子どもの医療費助成事業に対し、経費の2分の1を補助する。 【対象】 外来：小学3年生まで 入院：中学3年生まで							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 上記実施方法とする理由：市町村等が事業主体となる事業であるため。							
予算額・決算額 (単位：千円)	費目(予算見積書のグループ名)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	医療給付事業費補助	1,272,345	1,237,524					
	計	1,272,345	1,237,524	0	0	0		
財源内訳 (単位：千円)	国庫支出金							
	繰入金							
	その他特定財源							
	一般財源	1,272,345	1,237,524					
	計	1,272,345	1,237,524	0	0	0		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	給付件数	活動実績	件	1,475,812	1,452,782			
		当初見込み	件	1,430,925	1,393,558	1,365,687	1,338,373	1,311,606
成果指標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標 (所管部局の分析)		単位	年度	年度	年度	年度	年度
	-	成果実績	-	-	-	-	-	-
		目標値	-	-	-	-	-	-
		達成度	%	-	-	-	-	-
関連事業	ひとり親家庭等医療給付事業							

事業目標の考え方(事業目標設定時)	
-	

事業所管部局による評価・検証			
	項目	評価	評価に関する説明
事業目標の妥当性・達成度	事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。	A	子育て家庭の経済的負担の軽減を図り、次の世代を担う子どもを生ま育てやすい社会環境を整備するため、必要性が高い事業であり、県内全市町村で実施されている。
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	A	
	目標水準は妥当か。	A	
	期待する成果が得られたか。	A	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	—	
事業内容の妥当性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	A	市町村が実施する子どもの医療費助成事業に対し、県が経費の2分の1を補助するものである。 適正受診を確保する観点から、世帯の所得に応じて一部負担金を設定している。 対象となる医療は保険適用となるものに限定している。
	支出先の選定は妥当か。	A	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	A	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	A	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	A	
類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	A		
役割分担の妥当性	市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。	A	市町村では、中子3年生(一部市町村では高校3年生)までの外来・入院にかかる医療費の自己負担分について、子育て世帯に対し、医療費の助成を行っているが、うち小学3年生までの外来、中学3年生までの入院部分については、県も半分負担しており、役割分担がなされている。
今後の改善の課題等	少子化に伴い給付件数は逡減しているものの必要性が高い事業であり、次の世代を担うべき子どもを生ま育てやすい社会環境の整備をめざし、引き続き取組みを進めていく。		

- ・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。
- A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。
- B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80~99%)。概ね妥当。
- C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。
- : 該当しない